

筑波大学附属図書館における 電子展示

大久保明美

1. はじめに

筑波大学附属図書館では、平成7年6月に中央図書館新館が増築され貴重書展示室が設けられた。これを機に展示会が開始され、これまで開催された特別展・企画展は27回を数える。本稿では本学の展示会の活動を紹介

するとともに、令和2年度に開催した電子展示について検証し今後の課題について考える。

2. 特別展・企画展について

当館の展示は、通年展示の「常設展」と、原則として年に1回開催される「特別展・企画展」に分けられている。なお、特別展は附属図書館と学内の教員組織等の共催によるもの、企画展は附属図書館の企画によるものとし、貴重資料を広く公開することを目的として開催している。例年、本学の特別展・企画展は、毎回固有のテーマを設け、展示室での現物展示に加え、展示図録の作成と電子展示の公開を基本スタイルとして開催してきた。特に電子展示では展示資料の紹介にとどまらず新たな情報を付加して公開することを目指し、講演会動画の配信なども行っている。

3. 令和2年度企画展

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、展示室での現物展示は断念し、電子展示「もう一度見たい名品～蔵出し一挙公開～」を12月14日（月）～2月28日（日）まで開催した。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2020/index.html>

電子展示は2部構成となっており、平成16年～令和元年の各展示から、選りすぐりの資料を数点ずつ選び「もう一度見たい名品」として紹介し、平成7年以降に開催された展示会の振り返りは「特別展・企画展の軌跡」として紹介した。「もう一度見たい名品」では、各展示の概要や一押し資料の説明を加え、高精細な電子画像により資料を見ることができるようにした。また、「特別展・企画展の軌跡」では、過去の展示オフィシャルWebサイトを、開催当時の形はそのままに資料リストやリンクを整備して最新の書誌情報や電子画像にアクセスできるようにした。開催中には、

Twitterでポスターに使用した資料を中心に紹介を行うなど、電子展示をより楽しんでもらえるような工夫もしている。期間中のWebサイトへのアクセス件数は約4,850件であり、現物展示を伴う過去の展示Webサイトへのアクセス数と比較すると約1.4倍であった。なお、アンケートもWebサイトから回答できるようになっていたが、予想していた反応は得られず、今後の課題となっている。



令和2年度附属図書館企画展Webサイト

4. 電子展示の取り組み

本学では展示会が始まった当初から電子展示の様々な可能性を模索し、すべての展示会でオフィシャルWebサイトを構築している。最初の開催となった「天正少年使節と『原マルチノの演説』」のWebサイトは、「館長挨拶」、「展示室紹介」、「展示出品」を中心に構成されている。当時の展示会は展示室での現物展示が主流を占めており、本学でも電子展示の在り方については手探りで行っていたと思われる。「展示出品」ページでは、マイクロフィルムからタイトルページのみを画像化し、所蔵情報へのリンクとともに掲載した。

なお、これらは、のちにマイクロフィルムからの本文電子化が行われ、所蔵情報からPDF化された電子画像を見ることができるようになった。

併せて、平成10年からは展示室で配布していた展示図録をPDF化した。さらに平成12年からは展示資料をPDFの白黒画像ではなく、高精細に撮影したカラー画像で公開している。国立国会図書館では平成10年から「デジタル貴重書展」を開始しているが、本学でもほぼ同時期に電子展示を試行錯誤していた様子が伺われる。

企画展・特別展のWebサイト構成は、それぞれの展示会によって様々な工夫がされてきたが、SNSの普及に伴いYouTubeの配信が始まったところから、電子展示（高精細画像の公開）＋展示図録PDF＋講演会動画＋広報物PDF（ポスター、チラシ）＋ α で構成されるようになり、Twitter等を使つての広報も活発に行われるようになった。平成21年からは講演会を録画しYouTubeの配信を開始し、平成22年以降はTwitterでも広報を始めた。また、平成18年から平成26年までは、展示図録の付加情報として、企画内容に関する様々なことをブログに書きWebサイトから公開した。＋ α の要素は、企画内容によって多様化しており、葉や工作グッズなどはWebサイトからダウンロードし、誰でも作成できるようになっている。近年の試みとしては、展示室内に大型ディスプレイを配置し、特に注目すべき資料については高精細な画像をページネーションし好評を博している。

5. 展示ワーキンググループの役割

展示会を開催するにあたり、展示ワーキンググループ（以下展示WG）の活動は不可欠なものとなっている。展示WGは図書館職員8名程度で構成され、企画、資料撮影、チラシ・ポスター作成、展示図録作成、パネル等作成、講演会、Webページ作成、広報等を中心に、

各自が複数の業務を担当している。なお、展示WGの任期は2年とし、展示に関する知識・スキルの習得と経験の伝承のためメンバーは毎年半数程度を入れ替えることとしている。各担当者は、近年のIT技術の進歩に対応し、実際の業務を経験しながら、効率的で創意工夫されたマニュアルの作成を心がけている。特に、展示図録作成やWebページ作成では、過去の記録を参考にしながら作業マニュアルに修正を加え、常に最新の情報を共有している。また、会期1週間前には、展示室に資料やパネル等を配置し展示準備を開始、来館者を迎える準備を整えている。

6. 今後の活動について

本学の展示会については、貴重な所蔵資料の公開および地域への公開事業拡大を目指し、毎年継続的に開催することを基本とし一定のスタイルを確立してきた。展示室の開室以後、約四半世紀にわたり毎年展示会を開催してきたが、近年のデジタル技術の進歩に伴い図書館業務は多様化し、展示WGの業務量を考慮すると展示会の在り方を検討する時期になったと考えられる。特に電子展示については、白黒画像の公開から始まったが、現在ではデジタル技術の進歩により高精細なカラー画像が公開できるようになっている。本学では、約1.2万冊の貴重書に加え、約8万冊の和古書を所蔵している。なお、貴重書についてはほとんどの資料が電子化されているが、和古書については約2割程度にとどまり、展示対象資料が電子化されていない場合も多い。また、企画内容によっては近現代の資料を展示することもあり、著作権関係の処理が煩雑になっている。大学図書館には、貴重な資料を収集し保存し公開する義務があり、今後はデジタルアーカイブが加速することに期待したい。今後も筑波大学附属図書館における電子展示は、現物展示の付加価値としてはもちろんのこと、電子展示特有の新たな挑戦

を行っていくつもりである。

参考文献：

筑波大学附属図書館特別展・企画展

[https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/
support/special-exhibition](https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/special-exhibition)

大久保明美，篠塚富士男，筑波大学附属図書館における展示会活動，図書館雑誌，2015.10

（おおくぼ・あけみ／筑波大学附属図書館）